

鉄板ネタ

瑞浪市教育委員会 教育委員 羽柴 誠

先生が小学3年生の時、たこ焼き3個で10円、うどんは30円・・・でもバナナは今より高く、病院のお見舞い品になったぐらい。遠足のお菓子100円以内というルールの中では、バナナを半分に切らないと他のお菓子が買えなかった。

そんな高いバナナが給食に出ることになった。しかも、1本！信じられなかった。カレンダーに○印を付けた。

前日の夜は、風呂上り裸踊りをした。翌朝、悪寒がして頭が痛い。こんなこと家族に言えない。熱を測られたら学校に行けない。バナナが食べられない。早々に家を出る。何とか学校には着いたが、周りに気付かれてはならない。唯一幸いだったことは、体育が無かったことだ。ポーっとしながらも、いつもと同じ程度、挙手したり、騒いだりした。とにかく給食まで頑張ればバナナが食べられる。その一心で頑張った。ついに給食。給食トレーを持って並ぶ。無事バナナが食器に載せられ席に戻る。いただきまーす。やったー！バナナが食べられる・・・と思った瞬間、意識が飛んだ。

目が覚めるとテレビで相撲がやっている。これは我が家だ！（途中、医者に診てもらったはずだが、その記憶はない）あんなに頑張ったのに、バナナが食べられなかった。とめどなく流れる涙を拭こうとした時、バナナを握っている手に気づいた。

・・・という話が、教師時代のお父さんの鉄板ネタだったと娘に話した。「それは、担任の先生が偉い！こうやってお父さんが自慢話のように話せるのは、先生がバナナを握らせたまま家に帰してくれたからだよ。きっと、先生はすべてお見通しだったと思うよ。」と諭された。その通りだ。私の鉄板ネタを作ってくれたのは、担任の先生だ。それに比べて私は、子どもたちに鉄板ネタを作らせるような粋な計らいや支援ができていただろうか？

「私と先生」

安八町教育委員会 教育委員 坂 隆史

日本の教育で今一番の問題は、先生の成り手が少なくなっていることではないでしょうか。岐阜県においても教員採用試験の受験者が2倍を切る状況です。資源のない日本にとって最大の力になるのが、人を育てることです。そのために一番大切なのが先生の存在です。

私にとっても先生の存在はとても大きなものでした。

私が先生になろうと思うようになったのは、中学1年生の時でした。私の両親が教員であったことが影響したのはもちろんです。そして、中学1年の担任木村先生とその学年の先生方の雰囲気がとても素敵だったことがあります。土曜日のお昼に班長みなんでお弁当を食べ、班長会をやり、その後部活動が始まるまでの時間みなんで遊ぶのです。これがクラスのリーダーの連携を生んでいたのです。私たち生徒一人一人が生き生きとアイデアを出して活動できる場を与えて下さったのです。今思い出しても「わくわくしてきます。」私の学級経営の原型がここにあるのです。そして、私達がクラス作りで競い合っていた隣の学級担任として私が一生涯を通じてお付き合いさせていただき、近藤先生がおみえになったのです。

中学時代、先生とは3年間理科の教科担任として、学年の先生としてお世話になったのです。しかし、先生とより深くお付き合いするきっかけを作ってくれたのが、私の小学校以来現在に至るまで付き合っている大親友のTでした。中学2年の時「昨日の夜、夢で、学校ボランティアをやるようにお告げがあった。それでやろうと思う。お前も手伝え。」とTに言われたのです。まずTとKと私の3人で相談し、始めることにしました。親しい学年の友達に声を掛けて始めたのですが、その時に相談に乗ってくださったのが近藤先生だったので、夏休み学校の草刈りをしたり、壊れた排水用の土管を変えたりしました。活動を継続するために、後輩たちに声をかけ高齢者施設で二人羽織をやったりもしました。その後輩を紹介して下さったのも近藤先生でした。私達が中学を卒業した後、2年間この活動が続いたのも、先生のお陰だったのです。

私とTとKの3人は中学卒業後、毎年お正月に近藤先生のお宅に御邪魔していました。それは、社会人になり3人がそれぞれ家庭を持つまで続いたのです。

その後、近藤先生とは教員としてお付き合いすることになるのです。私の担任した生徒の転校に伴い、お願いに行きました。また、鹿児島市との交流事業と一緒に参加させていただいたりしました。

先生の退職後は、私のお寺へ、お話しに2度来ていただきました。また、近藤先生に頼まれて、「ハリヨ」の紙芝居の絵を描かせていただきました。先生がお話を書かれ、それに絵

を付けさせていただいたのです。大変でしたが、先生との良い思い出の一つになりました。先生は、この紙芝居を持って小学校を訪問され読み聞かせをして下さったのです。先生が亡くなる少し前に、その紙芝居の修理を頼まれおとどけした時の御顔が鮮明に思い出されま

す。

先生がお亡くなりになった時、家族葬とのことだったので、私とKは葬儀に出席しなかったのです。しかし、T 1人は「先生と俺の付き合いはそんな浅いものじゃない、葬儀に出る。」と言って出席しました。先生の近くに住んでいたTは先生が体調を崩されるまで、子供の見守り活動を一緒にやっていたのです。葬儀に出なかった私とKは先生が亡くなられて1年後の御命日に、お経をあげてお別れをしてきました。

どうして近藤先生と一生涯お付き合いさせていただいたのでしょうか。それは、先生の人としての素晴らしさであったと思います。叱られたこともあります。しかし、いつも温かく包まれていたように思います。

先生の存在は、児童・生徒にとって、とても大きなものなのです。それだけに、個性あふれる優れた人に先生になっていただきたいのです。

そのためには、先生方の労働環境の改善をすることです。子育て中心の政治の実現が今一番日本にとって必要ではないでしょうか。